英　語　科

渡村のりこ
田中　里美
上野　郁子
研究協力者　滝沢　雄一（金沢大学）

１．ＥＳＤを進めるにあたって

英語科では，昨年度までの２年間，ＥＳＤの研究を進めるにあたり，３つのことを念頭に置きながら，授業づくりに取り組んできた。

１つ目は，教科の目標や育てたい力を第一に考えるということである。英語科の目標は「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」である。これを基本に，各学年の教科の目標を生徒が達成できるように「思考力・判断力・表現力等の育成」を重視した授業をめざしてきた。

２つ目は，本校の研究テーマである「持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力の育成」を受け，ＥＳＤの視点に立った学習指導を行っていくことである。その際に，重視する能力・態度すなわち①代替案の思考力，②未来像を予測して計画を立てる力，③多面的・総合的に考える力，④コミュニケーションを行う力などをどのように育成するかを考えた。

３つ目は，他教科で扱っている教材を意識して，教材の「つながり」を考えながら指導していくことである。平成 26 年度と 27 年度の研究では，この教材の「つながり」を特に重視して研究を進めてきた。同じ題材の教材をどの教科で，いつ扱うかを考えて指導することで，生徒の理解をより深め，それを元に表現活動をすることで教科としての思考力・判断力・表現力の育成を促進することができた。

２年間のＥＳＤの研究と英語科が取り組んできたことを生かし，今年度はさらに，次期学習指導要領がめざす「育成すべき能力・態度の三つの柱」と「深い学び・対話的学び・主体的な学び」の視点の中から，本校では「深い学び」を強く意識し，ＥＳＤの視点に立った学習指導目標における身に付けたい力（重視する能力・態度）の育成を図る授業実践を行っていくことにした。

２．能力・態度の育成にあたって

（１）英語科の授業における能力・態度の育成について

英語はコミュニケーション能力を育成する教科であることや英語科の目標を踏まえると，ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度のうち，④コミュニケーションを行う力，⑦進んで参加する態度は，身につけなければならない能力・態度である。合わせて，教材や単元によって，①代替案の思考力，②未来像を予測して計画を立てる力，③多面的・総合的に考える力の育成を図っていくことになるが，各学年の教科の目標を踏まえ，１学年は④コミュニケーションを行う力，２学年は②未来像を予測して計画を立てる力，③多面的・総合的に考える力，３学年は①代替案の思考力の育成を，各学年ごと段階的に，重視して行っていくことにした。

（２） 教材の「つながり」について

英語科の目標は，「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」ことであるが，この４つの技能を高めていくためには，表現するための知識や自分の考えが必要不可欠となってくる。その知識や考えの基盤を作るために，他教科とのつながりがたいへん有効である。単元の題材や内容が他の教科と共通していると，他の教科で学んだことが先行知識となって，思考しながら英語で文章を読んで理解したり，自分の考えを英語で表現する際に，大きな助けとなる。また，英語科で学んだ内容が他教科で学ぶ際の刺激になり，他教科での関心・意欲・態度の向上につながることもある。さらに，学年を超えて同じ題材に取り組ませることで，前学年時には気づかなかったことに気づき，考えを深めることができるようになったり，異なる見方ができるようになったりすることもある。生徒はこれらの教科間・学年間のつながりを感じることにより，学習内容をより理解し，学習意欲をより高めていくと思われる。

今後の英語教育においては，「英語を使って何ができるようになるか（個別の知識・技能）」という観点だけではなく，「英語をどのように使うか（思考力・判断力・表現力）」「英語を通して，どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性）」という観点を念頭において，授業を構築していかなければならない。主体的な学び，協働的な学び，他教科での学びが「深い学び」の実現，英語力の向上につながると考え，研究を行っていきたい。

（３） 深い学びの過程について

英語の授業においては，ペアやグループ活動，クラス全体でのプレゼンテーションなどを通して，生徒は協働的な学習を行う機会を多く持っている。そのような学習活動の中で，生徒は新出の文法事項や既習表現を使って（習得），ある事象を説明したり，自己表現したりする（活用）。そして他者と関わりながら，伝えたい思いや伝わらないもどかしさなどを体験し，そこで思考し判断して，自分の考えや表現力を広げていく（探求）。このような過程において，深い学びを実現していくのではないかと考える。

また，教科書の My Project を通して，プログラムで習った表現を使いながら，学年を超えて，継続しながら，段階的に学習ができ，３年間を通して既習表現を積み上げ，英語に関する知識や表現力，英語運用力を高めていくことができる。

本校英語科では，My Project の活動とともに，ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の育成と合わせて，深い学びの実現を図っていきたいと考えている。

３．成果と課題

（１） 第１学年の成果と課題

１年生では，「コミュニケーションを行う力」の育成を重視した実践を主として取り組んできた。生徒たちは全体的に，英語の学習に対し意欲的であり，積極的にさまざまな活動に取り組む様子が普段の授業からもよく見られる。６月には，My Project①「自分のことを話そう」を題材に，「よい話し手，よい聞き手になるにはどうすればいいのだろう」を学習課題とし，授業実践を行った。ここでは，生徒たちにとっての初めてスピーチ発表ということで，２つのモデルスピーチを見せ，話す時に気をつけなければならないことを確認した。話す人（speaker）は，一方的ではなく，聞き手を意識して，わかりやすく伝えること，さらにわかりやすく伝えるためには，聞き手とのアイコンタクト，大きな声ではっきりと話すこと，ジェスチャーを使ったり，笑顔で話すことなどが必要であることを生徒た

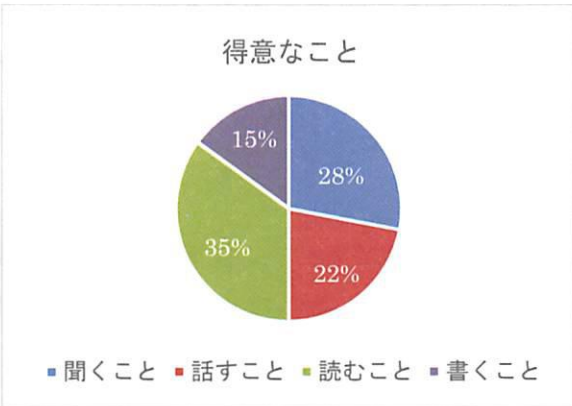
ちは学んだ。また，聞く時には，話し手が話しやすいように，相づちなどのリアクションをとることを勧めると，対話感覚のスピーチ発表となり，盛り上がった。生徒の感想は，実践事例①にある。

この授業実践の後からも，教師とのインタラクションや生徒同士の活動の際は，“Good Communication” というフレーズをよく使うことで，生徒たちには “Good speaker”（一方的ではなく，聞き手を意識して，わかりやすく伝えること）と“Good listener”（話し手を意識し，相づちなどのリアクションをとること）を意識させてきた。そのような環境を作ることと，ペア・グループ活動，全体での発言や発表の機会を多く設けることで，生徒たちは間違いを恐れずに，英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができたのではないかと思っている。以下は 12 月に実施した生徒のアンケートである。

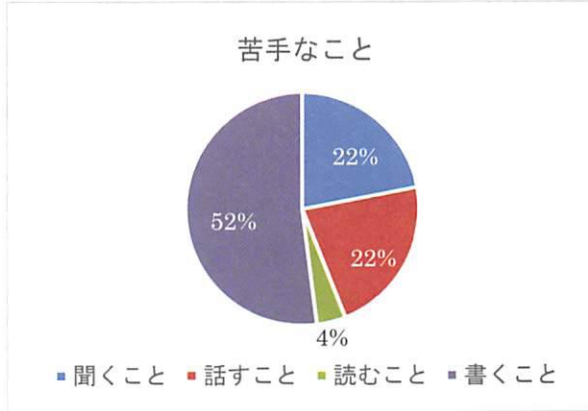
Q1　英語の授業でできるようになったことは何ですか。

生活でよく使う表現や文と文のつながりなどの色々な知識を習得できた。／相手に伝えるための表現のしかた。／簡単な会話ができるようになった。／クラスのみんなの前で，しっかりと発表すること。／相手の言っていることを聞き，英語でリアクションすること。／たくさんの単語を知って，いろいろな表現の仕方ができるようになった。／場面を考えて，英語を使いわけること。／英語で，みんなのことを知れるようになった。／誰とでも恥ずかしがらずに，はっきりと話すこと。／まだ充分ではないけど，自分の興味のあるものや相手に質問できるくらいまで，文法を間違えずに会話すること。／読むことが速くなった。話すことは苦手だったけど，少しずつ得意になってきた。／英文をスラスラ読めるようになったことや難しめの文を書けるようになった。／・コミュニケーション（笑顔で話すこと，はっきり話すこと，ジェスチャーをつけること）／質問されたことを，英会話のように瞬時に答えられるようになった。／相手の話していることを理解し，その答えを自分なりに言うこと。／簡単な文だが，しっかりと正しい文を書けるようになってきた。／文法や単語の知識が増え，いろいろな人とコミュニケーションがとれた。／積極的に話すことや “Good communication”のためにした方が良いこと。／自分や他の人のことを話せるようになった。人に質問できるようになった。

Q2　活動の中で一番得意なことは何ですか。



Q3　活動の中で一番苦手なことは何ですか。



生徒の感想からも，今年度はＥＳＤの視点における「コミュニケーションを行う力」の育成については，多くの生徒から成果が見受けられるが，英語科の教科の目標としての「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」ことに関しては，Q2 と Q3 の回答から，力の偏りが見られる。「読むこと」に対しては 35%の生徒が得意としていることに関しては，今後も音読や黙読の活動を継続的に行いながら，得意となる理由の検証をしていきたいと思う。
そして，読んで，相手に内容を伝えるなどのコミュニケーションにつながるリーディング活動を合わ

せて行っていきたい。

一方,「書くこと」に対する苦手意識を持っている生徒が半数以上もいることがわかった。生徒の様子を見ると，話すことはできても，単語を正しく綴れなかったり，正しく文章が書けなかったりする場面がある。授業の中で,「書く」活動を増やして，正しいスペル，表現で書くことをこまめにチェックしていきたい。My Project 2「人を紹介しよう」のスピーチ原稿を書く際には，生徒の中には，言いたいことが未習で使えなかったり，どのように表現していいのかわからず書けないといった場面もあった。未習表現は，事前に全体で確認したり，みんながわかる表現に書き直させる指導が個々に必要であると感じる。

また，正しく単語や文を書くことはもちろんの身につけるべき力であるが，いろいろな知識や自分の考えを持たなければ，英語で書いて表現することはできない。学年が上がると，自分の考えを表現することがますます多くなってくる。今後はさらに，他教科とのつながりから様々な知識を増やしたり，能力・態度のつながりからいろいろな考え方ができるように意識し,「書くこと」でコミュニケーションを図る取り組みを積極的に取り入れ,「書くこと」に対する強化を図っていきたいと思う。

（2） 第２学年の成果と課題

＜ＥＳＤの視点に立った授業実践＞

２年生では，ＥＳＤの視点に立ち,「未来像を予測して計画を立てる力」の育成を重視した。２つの授業実践では，国際理解に関わる「A Trip to Finland」(Program 2)と「If You Wish to See a Change」(Program 7)を題材として，身近な地域と学校で，未来のために（未来にそなえて）自分たちにできることを考え表現した。以下は，２つの授業後に生徒が書いた感想と授業の終末で書いた英文である。太字の部分はＥＳＤに関わるもの，下線は英語の技能や単元の新出表現に関わるものである。授業後の感想から，５月の授業では，英語で対話を続けるなどの英語の技能に関心が向いていたのに対して，11 月の授業では，ＥＳＤに関わる内容により関心が向いていることが分かる。これは，英語での対話に慣れてきたことで，意味のやり取りが重視され，他教科や他の能力「多面的，総合的に考える力」「代替案の思考力」へとつながっていったと考えられる。また，生徒にとって考える価値のある，実現する可能性のある未来の課題を設定することは容易ではなかった。未来のことを考える際には，生徒たちの柔軟な発想を期待しながらも，関連する情報を豊富に与え，明確に想像しやすい場面を設定しなければいけないと感じた。

① 実践事例『予定のない外国人観光客を誘って，金沢を巡ろう！』 (5/24)

５月の授業では，柏樹タイム（総合）の金沢自主プランを翌週に控えて，金沢駅で外国人観光客に会い，金沢を巡ることを想定した対話を３回繰り返した。生徒たちは，90 秒という時間で，英語で対話が続かないもどかしさを初めて体験していたが，思考錯誤しながらも，未来の状況を予測して英語で話そうとしていた。

＜授業後の感想＞

- 何回も会話を繰り返すことによって，<u>少しずつ会話が長くなっていき，より多くの表現を使う</u>ことができた。
- <u>対話をしているうちにだんだん楽しくなってきて，ジェスチャーなども入れて完全に演技</u>をしているような気分になりました。
- 何回も（対話を）していくうちに，<u>どう続ければいいか，どんな反応をすればいいかというのが徐々にわかってきた</u>ので良かった。ただ、<u>予定についてなのに、be going to～ではなく過去形になってしまったことがあったので，瞬時に正しい言い方ができるようにしたい</u>。

・即興で対話をするのは難しかったです。まして，自分とは違う立場の人になりきって対話をするので，どうしても文と文の間に考える時間が必要でした。金沢自主プランで調べていたこと（東山に行くには周遊バスに乗らなければならないなど）があったので，あやふやな情報を流さず，事実を述べることができました。
・最初よりも，I-pad でのビデオ撮影後の方がレベルアップしていたと思います。動画で見ると，目線や声の調子などがわかりやすくてとても良い方法だと思いました。わかりやすく、実際に使えそうな文が作れたので良かったです。
・90 秒の対話は長くて沈黙もありましたが，グループの人たちの対話を聞いて参考にしたり，まねしたりしてみて，最初よりもずっと長く話し続けられました。私たちの対話は，あまり自然ではなかったのですが，ジム先生と田中先生の対話のビデオを見て，「Oh!」とか「Really?」を入れてみようと色々工夫しました。
・いつもの対話より設定が細かく，時間が長かったので初めは会話が途切れてしまいましたが，終盤はけっこう話すことができて良かったです。今まで習った「Good idea!」や「That's great!」のような短い文が，文と文のつなぎとしてとても使いやすかったです。
☆初めは 30 秒で止まってしまいましたが，ペアの人と一緒にどうしたら会話が続くかを考えて，徐々に会話が続くようになりました。私たちは初め，「兼六園に行ったことがある？」と聞いて，「ないから，一緒に行こう！」という設定にしましたが，全然会話が続かなかったので，「兼六園はもう行ったから違うところへ行こう！」という会話に変えました。すると，兼六園がどうだったか，金沢城に行く交通手段など，話す話題が増えて会話がはずむようになりました。先生たちのビデオを見て，金沢の観光のことではなくても，外国人の出身地や何回目の滞在かを話すことも１つの方法だと思いました。実際に駅で外国人に会い，一緒に金沢を観光しようとなったとき，外国人に楽しく観光してもらえるような会話ができたらとても素敵だと思いました。

＜☆の生徒が対話後に書いた，外国人観光客との対話文＞

A: Hello. B: Hello. A: Where are you from? B: I'm from France. A: How long are you going to stay? B: For a week. A: Oh, I see. Welcome to Kanazawa. B: Thank you. A: Do you have any plans after this? B: No, I don't. A: Oh, really? Did you go to Kenroku-en garden before? B: Yes, I did.	A: How was it? B: It was very beautiful. I had a lot of fun. A: Oh, good. Did you go to Kanazawa castle? B: No, I don't. A: Really? I'm going to go to Kanazawa castle. Will you go there with me? B: Can I go there with you? A: Yes. **Let's go to Kanazawa castle by bus.** B: Thank you. Yes, let's. A: 金沢自主プランに出かける附属中生 B: 予定の決まっていない外国人観光客

② 実践事例『世界の人と共存するための，未来の理想の学校を提案しよう！』(11/23)

11 月の授業では，セヴァンのスピーチにある環境問題、貧困問題を踏まえて，2030 年の未来の理想の学校像を考えた。相手を変えてペアで２回対話をしたが，２回目は２分間でもまだ話し足りない様子だった。授業の終末に，（副）校長宛てに手紙を書くという設定にしたことで，生徒たちはより現実味のある提案として，未来の学校を真剣に考えていた。

＜授業後の感想＞

・話し合いもはずみ，理想の学校のイメージをしっかり持つことができました。技術分野との融合も考えつつ，未来の地球のために何ができるかを文に表すことができました。もっと英語を勉強し，世界とつながっていきたいです。
・他の人と意見を共有することで，自分の意見も深まったし，他の視点からも未来の学校について考えることができたのでよかったです。実際に手を動かす（書く）ことで整理できたと思います。
・自分の学校が変わることで地球の未来に少しでも貢献できるのならいいなと思った。100 年後はもう，今のような環境ではないということに危機感を感じた。自分の生活を少しずつ変えていきたい。
・学校の未来を提案するのは楽しかったし，英語で自分の言葉を伝えられた時はうれしかったです。ホームページにのせられたら嬉しいです。辞書を引くことで，自分の知らない単語を知ることができてよかったです。
・私はグローバルな学校にするために，海外へ旅行するという案を手紙に書きました。他にも環境に優しい学校にするために，校内で衣服を脱ぐのを自由にするという案もありました。もっと素敵な学校になったらいいなと思います。

・未来の良い学校を作る上で，poor children の存在を忘れてはいけないと思いました。毎日学校に行けることがとてもすごいことで世界には行きたくても行けない人がいるので，感謝する必要があると思います。
・楽しい授業になった。2030 年の未来の学校が，今私たちの考えたものになっていたらすごいと思うし，2030 年にここ（附属中）に来てみたい。
・世界の人と共存するために，未来の学校を提案するというのはとても面白かったです。日本では、最近グローバル化を目指している学校が増えているので，私たちも未来を担う１人として考えなければいけないと思いました。
・（副校長に）手紙を書いてみて，今まで習った単語と副校長先生からのアドバイスを駆使して，文の構成を考えるのは大変でした。A さんの案はとても良いなと思いました。黒板をホワイトボードに変えるのは，お金がかかるけど，それ以降お金がかからないのもいいと思いました。
・理想の学校を作り上げるためにバザーやグリーンカーテン，修学旅行を海外にするなどいろいろな案がありましたが，どれもみんなが協力することが大切だと感じました。まず変えなければいけないのは，みんなの意識です。

＜生徒が書いた「未来の学校」の提案文＞

Hello. I'm thinking about our school for the future. Our school is very environmentally-friendly now. But I think our school can be more environmentally-friendly. I want to say two things about our school. First, **our school is throwing away a lot of trash. We must recycle it. For example, we can exchange waste papers into new papers.** Second, **we are wasting a lot of electricity. Our school lights are always on. We must turn them off when we don't use them. We can save a lot of**

Hello. I'm thinking about our school for the future. **I think our school should change to be a Global School.** First, **our school teachers should teach all classes in English.** Maybe it'll be hard for us. But it's very important for the future. Japanese people have to speak with people in English from other countries now. I think we have to do it in the future. So we can speak in English well. We have to speak English at school. Second, in the future we should have a student exchange program during summer vacation. We can speak English a little, but not well now. **If we go abroad, we can talk with people in English.** So, please change our school life.

Hello. I'm thinking about our school for the future. I'm going to tell you about my opinion. **My first opinion is to meet a foreign student from a poor country every year for one month.** It's **because we can tell children who can't go to school now important the school is, and we can also know about poor countries.** And I can become used to speaking English. Second, to have a day to perform all the classes in English. **English is the universal language. I think that it becomes easy to deepen the world's interchange with people by always speaking English.** I thank to the teachers who give us a chance for students to think about a future school.

＜深い学びの過程のための取り組み＞

２年生の英語の授業では，英語による１対１の対話を重視してきた。４月当初，原稿があると，顔を上げずに原稿を棒読みしてしまう生徒が目立った。そのため，普段の授業で，新出表現と絡めたテーマで対話をし，その対話をもとに自分の考えを書くという，「話したことを書く」流れを徹底してきた。それ以外にも，導入での生徒と教師によるインタラクション，帯活動としての即興対話活動（ODP: Our Daily Project）と Basic Dialog の創作対話活動を１年間継続してきた。その結果，生徒たちは，対話から気づきが生まれることを自然と楽しむようになり，その場で瞬時に考えて英語で表現する力が着実に身についてきた。ペアでの ODP のやり取りも，４月当初は 50 秒間で３回続けることが難しかったが，12 月の時点では，どのペアも１分間で５回～10 回は自然にできるようになった。「金沢自主プランで，外国の人と英語で会話ができた」「いきなり休日に外国の人に英語で質問されたけど，ODP のおかげで応えることができた」など，教室で使う英語が，教室の外でも通じることを生徒自身が実感している。まとまった文章を書く際も，約７割以上の生徒が，５分間で５文以上の多様な表現で伝えたいことを書いている。このように，対話で培った表現力が，英語で書いて表現することにも良い影響を与えている。

生徒が My Project で ICT を活用して発表できるよう，教師は毎時間 ICT（パワーポイント）を使って英語で授業をしてきた。また，他のクラスの My Project のモデル発表映像を観せたり，チャリテイポスターや英字新聞の良い作品を廊下に掲示するなど，クラスの枠を超えた学習環境を作ることで，自分の発表や作品と比較してより深く学ぶことができたといえる。日常的な授業の振り返りと記録（English Learning Record）で個人の学びを積み重ね，１カ月以上前から My Project に向けて学習の見通しを持たせることで，生徒は中長期的な目標を持って主体的に学習していた。

今後の課題は，２つある。１つは，英語で話したり書いたりする量が多くなればなるほど，英語の表現や文法・スペルの間違えは避けられないということである。「英語で話したい」「英語で書きたい」という意欲を育みながら，英語の間違えを適切に修正していかなければいけない。そのため，よくある間違えは授業中に全体の場で，ワークシート，レポートや作品など生徒が日常的に書く英文には授業後に目を通して添削し，ALT の協力を仰ぎながら個別に誤りを修正していきたい。

２つ目は，英語の授業に限ったことではないが，グループや全体の場での発話が消極的で声が小さいということである。席の離れた生徒の発話を自分の言葉で報告したり，ICT を使った６パターンの音読練習などで，全体の声も当初に比べてだいぶ出るようになってきた。さらに，生徒が自然に声を出すような仕掛けをしていきたい。また，他教科の授業と連携して，聞き手を意識して，声を出すことに抵抗がなくなるようにしていく必要がある。

（３）第３学年の成果と課題

３年生では Program3（環境問題）と Program7（国際協力）を題材として，課題の発見・解決に向けて友だちと協動的に学ぶ活動を取り入れながら２つの実践を行った。

３学年では ESD の資質・能力に関して①「代替案の思考力」②「多面的・多角的に見る能力」の育成を意識して，教科としては相手の意見や質問に対して，理由や根拠とともに建設的に英語で自分の考えを伝える力をつけることを意識して活動に取り組んできた。

前期の帯学習では一問一答対話をしたり，スピーチを聞いてそれに対して質疑応答をしたりする活動を行った。スピーチの質疑応答に関しては，聞きっぱなしにならず，相手の言ったことを理解し，それに対して深く知りたいことを尋ねるので，コミュニケーション意欲が高まり，英語を話すことに対しての抵抗が少なくなったように思われる。後期の帯学習では一問一答をレベルアップさせ，一つのトピックについて 90 秒間即興で会話をする活動を行った。初めのうちは相づちやジェスチャーもなく，なかなか会話が続かない様子だったが，継続して行っていく内に，相手の発話から話を広げたり，膨らませたりしながら会話を続けようとする様子が見られた。

Program3 (5Rs To Save the Earth)では様々な形で自分の意見を英語で言う場面を設定した。まず初めに”Refuse”の取り組みの一つとして”Eco bag”の話題を教科書中で取り扱っており，そこで２年生の Power Up8「賛成意見・反対意見を言おう」での表現を復習し，Eco Bag と Plastic Bag のそれぞれの立場でディベートを行った。Eco Bag と Plastic Bag 両方の長短所の立場で話をさせることによって多面的・多角的に考え，相手の言ったことに対して理由を述べて反論したり，自分の意見を根拠とともに英語で伝えたりする姿が見られた。Program の終末では自分たちができる 5Rs の取り組みについて計画を立て，それを実際に各家庭で実践し，その結果や感想を英語で伝え合う活動を行った。発表の時にはまずペアでお互いの実践報告を英語で行い，次に４人グループになり，ペアの実

践報告を Retelling して相手に伝える活動を行った。Retelling することで，相手の話を聞き，自分の言葉で言い換えようとする姿が見られた。また，家庭と連携して実践することで，環境問題に対する関心が高まり，進んで参加する態度の育成につながると期待される。これらの話す活動においては，帯学習での対話活動を元に，話し始めの言葉や，意見を伝える表現などの話型を提示することで，よりスムーズに対話を行ったり，発表をしたりすることができた。

Program7 (What is the most important for you?)では，「聞いたこと」や「読んだこと」を踏まえた上で，自らの考えなどについて発信ができるようにすることを目指し，「聞くこと」や「読むこと」と「話すこと」や「書くこと」とを結び付け，４つの領域を統合した言語活動を行った。Program の終末でボランティア案を考え，発表する活動を行った。「書く」時に語数や文数を指定することによって，分詞の後置修飾や関係代名詞を活用して文を書こうとする姿や，「話す」活動ではどの単語を強く読むか，どこで区切って話せばよいかなど相手に伝わるように意味や内容を意識して発表する姿が見られた。また，友だちの書いたボランティア案を読んで，代替案を出す活動では「内容」に関することだけでなく，「英語表現」に関する代替案を出し合うなど，学び合う姿が見られた。友だちに読んでもらうということで相手を意識し，自分の考えが伝わるような表現の工夫をしている生徒がいた。協動的に学ぶことで他のグループからの多面的な見方による問題や課題の指摘を受けて，自分が気付かなかった表現方法や問題点をいろいろな視点で知ることができた生徒も多くいた。

〈附中国際協力 Project の生徒感想〉

・ボランティア案の交流ではたくさんのアイティアを得ることができてとても面白かったです。自分では考え付くことのできなかったことを知ることができました。

・他のグループとの交流を通して，様々な支援の仕方があると思いました。また，何を問題にするか，誰の視点に立つかが異なるだけでいろいろな支援の方法を学ぶことができてとても面白かったです。

・他の班からの意見で，多面的にみるとそんな考え方もあると気づくことができました。

今後の課題としては，話す活動において第３学年では文法的な Accuracy（正確さ）や語彙のレベルを上げることが必要となってくると同時に，実践的コミュニケーションに近づけるためにも Fluency（滑らかさ）も必要である。即興で会話を行わせることで Fluency を意識した活動は行えるが，その活動においてのエラーの訂正は，生徒のコミュニケーション意欲をそこなわず，活動の流れを止めてしまわない範囲で行う必要があり，Fluency と Accuracy とのバランスを考えた活動を行うことが大切になってくる。

また，課題を見つけ，それに対して議論したり，解決方法を考えたりするなど発達段階に応じた高次の表現を行わせるには，それに見合う知識や語彙力が必要である。その不足する情報や経験を他教科とのつながりや，授業での知識・内容提示のさらなる工夫が必要となってくると思われる。今回 Program7 では議論や話し合いを行うときもできるだけ英語で行わせたが，会話が進まず，意見交換が活発に行われていない班もあった。生徒の思考を深めるためには，議論は日本語で行い，発表するときに英語を用いる方が生徒の満足度は高くなるのではないかと考える。今後，生徒の発達段階や知識習得状況に応じて使用言語の使い分けをする必要があると感じた。

1　題材名　My Project 1　自分のことを話そう

2　ねらい
学んだ表現や身近な語句を使って，自己紹介のスピーチをすることができる。

3　学習活動
（1）　英語スピーチの構成を知る。
・教科書p.44 のモデルを読んで，内容をペアで確認する。→　音読をする。
・教科書p.45 のタスクを行いながら，既習表現を確認する。
→　使えそうな表現にマーキングする。
（2）　自己紹介のスピーチ原稿を書く。
・教科書p.46 の(1) 導入（はじめのあいさつ）を書く。→　自分の言いたいあいさつを書く。
・(2) の本文で書きたいことを５つ以上選んで，チェックマークを入れ，話す順番を決める。
・スピーチ原稿を考えて，書く。

（3）　発表し，質問やアドバイスを受ける。【６月２８日】
①　前時に書いた自己紹介のスピーチ原稿をペアで，読み合う。
・伝わりにくい表現や相手が理解できない内容になっていないか確認する。
②　学習課題を知る。
・二人の先生（端名先生と西野先生）の自己紹介ＶＴＲを見る。
・先生方の自己紹介で良かった点をあげる。
(speak slowly and clearly / eye-contact / smile / pictures and gesture / humor / and so on)
＜学習課題：「よい話し手，よい聞き手になるにはどうすればいいのだろう。」＞
・聞き手側の注意点をあげる。（リアクションや相づちをする，質問をする，など）
(相づちwords：Oh, I see. / Really? / Me too. / Good. / Oh, no! / and so on)
③　発表し合う。
・４人グループで発表し，質問をし合う。グループ内で，一番よいスピーチができた人を選ぶ。
・全体での共有をする。ベストスピーカーはクラス全体に向けて，スピーチする。
・聞き手は相づちなどで，盛り上げたり，よりよい自己紹介につながるように，質問をする。
（4）　スピーチの仕上げをする。
・前時に受けたアドバイスや質問を元に，自分のスピーチ内容をもう一度見直す（書き直す）。
・原稿を見ずに，話せるように練習する。→　何人か発表する。（自主的に発表したい生徒）

＜生徒の感想＞
・相づちを使おうと思って聞くと，相手が話していることが自然に聞き取ることができた。これからも相手と対話するとき，相づちを使ってきたい。
・最初に書いた自己紹介より，みんなの発表を聞いた後の方が，よりよい自己紹介になったなぁと思いました。
・I learned about how to introduce myself. I think that I need gesture and smile to be a good speaker.
・自分のことを紹介するとき，ジョークを交えることで，聞き手に楽しんでもらえるのでよいと思った。
・ニコニコしてジェスチャーするとフレンドリーな人に見えました。もう少しゆっくり話そう。

4　ＥＳＤとの関連
（1）　構成概念
Ｖ連携性…自分のことを話したり，質問したりする中で，よりよく対話ができる方法を探る。
（2）　態度・能力
④コミュニケーションを行う力　キ：自分の気持ちや考えをわかりやすく人に伝えることができる。
【教科等の力】
・ 習った表現を使ってわかりやすく，聞いている人を意識しながら，自分のことを英語で話す力
（3）　教材の「つながり」
①　ＥＳＤとの関連　　その他　言語
②　教科等　　国語，総合的な学習の時間
③　題　材　「自己紹介文を書こう」（国語）　「WORD で自己紹介を作成しよう」（総合的な学習の時間）

1　題材名　リサイクル活動

2　ねらい

・相手に何をするのかたずねたり，答えたりできる。／２人［２つ］以上の人［もの］について言える。／数をたずねたり答えたりできる。

・基本的な英文を用いて自分のリサイクル活動について言える。

3　学習活動

（１）What do you ～?で始まる疑問文とその答え方を学習する。

・日常の行動についてたずねたり答えたりする。

・教科書本文を通して，recycling day（資源ごみ回収日）について知る。

・自分の家（地域）のrecycling dayを調べてくる。

（２）複数形の概念を理解し，綴りと発音を学習する。

・既習の名詞の複数形を用いて，基本的な情報のやり取りをする。

・教科書本文を通して，リサイクル活動の基本的な表現を知る。

・自分の家でやっているリサイクルについて考え，表現する。

（例）We collect bottles and newspaper at home.

（３）How many ～?で始まる疑問文とその答え方を学習する。

・教科書本文を通して，リサイクルする活動で集めたペットボトルキャップが，ポリオワクチンの購入に役立ち，発展途上国の子どもたちを救うことにつながることを知る。

・さまざまなＮＰＯ（非営利組織）の活動について知り，環境保護や人のためになるＮＰＯ活動をグループで考え，その活動をポスターで提案する。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ⅲ有限性…地域を挙げて行うリサイクル活動を通して，大事な資源を再活用することに気づく。

Ⅴ連携性…ＮＰＯ活動を考え，参加を呼びかけるポスターを作成することで，だれかの役に立っていることに気づく。

（２）能力・態度

②未来像を予測して計画を立てる力　⑦進んで参加する態度

【教科等の力】リサイクルや人のためになるイベントを考え，ポスターで提案する力

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　リサイクル

②教科　技術・家庭（技術分野），技術・家庭（家庭分野），社会（地理分野）

③題材　「設計」（リサイクル）（技術　１年），「食生活と自立」（ゴミの減量）（家庭　１年）「アフリカの課題と展望」（社会　１年）

1　題材名　国際フードフェスティバル

2　ねらい

・友だちや身の回りのものを紹介したり，たずねたり答えたりできる。／物・人がどこにある・いるのかたずねられる。／家族や友だちについて話せる。

・食文化を通して，国際理解・異文化理解を深める。

3　学習活動

（１）This is ～. / That is ～.で始まる文とその疑問文・答え方を学習する。

・近くにあるものや人，遠くにあるものや人について説明したりたずねたりする。

・教科書本文を通して，食文化（≒異文化）の違いについて触れる。

・さまざまな食の例を通して，食文化（≒異文化）の違いについて理解を深める。

◎問題解決場面　目標「食文化の異なる人同士の会話を考えよう」

①日本ではほとんど食されないインドやアンデスなどの食べ物について知る。

②それら日本ではほとんど食されない外国の食べ物が，そこの風土や環境に影響を受けていることを想起させる。

③上記２つを受けて，食文化の異なる日本人とアンデス地方の人との会話を考える。

④応答から疑問文を考えたり，疑問文から答えを考えたり，さらには，日本独自の食材に目を向けさせたりする。

⑤上の課題は，個人で考えた後，グループで共有・発表する。

（２）疑問詞whereとそれに伴う前置詞を学習する。

・身近にあるものや建物などについて，たずねたり答えたりする。

・教科書本文を通して，衣類の文化の違いを理解する。

・食文化と同様に，衣類にも国によって違いがあることを知る。

（３）３人称の代名詞 heとshe，および，それらを用いたbe動詞の疑問文と答え方を学習する。

・ある人物について，二つ以上の情報を相手に伝える。

・ある人物について，たずねたり答えたりする。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ｉ多様性…自国では食べないが，他国では食べられている食材が様々あることに気づく

（２）能力・態度

③多面的・総合的に考える力

オ：いろいろな側面やいろいろな人の立場からものごとをとらえることができる。

④コミュニケーションを行う力

キ：自分の気持ちや考えを，わかりやすく人に伝えることができる。

【教科等の力】食文化の異なる国の人の会話を通して，自由な発想で応答や疑問文を考え，表現する力

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　国際理解

②教科　社会，技術・家庭（家庭分野）

③題材　「世界各地の人々の生活と環境」（社会　１年）

「食生活と自立」（食文化）（家庭　１年）

1　題材名　　My Project 3　知りたい情報を引き出そう

2　ねらい

１年間に学習した疑問文とその答え方を復習し，先生や友達とインタビューをし合うことができる。

3　学習活動

（1）　相手のことを知るための質問を考える。

・教科書p.108 の自己紹介をもとにどんな質問ができるか考える。

・Yes / No で答えられる質問，疑問詞を使う質問をそれぞれできるだけ多くの例をあげる。

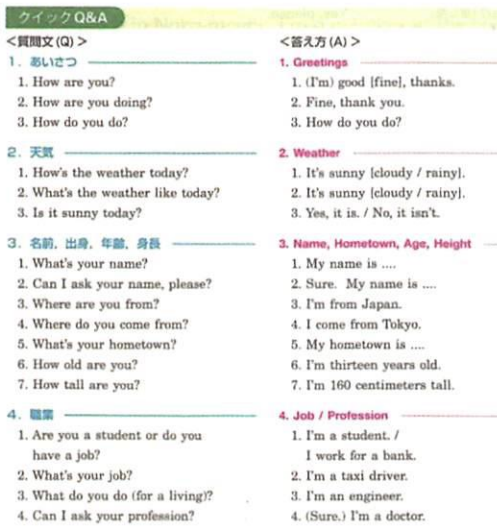
・教科書p.109の疑問文と答えの文を日本語にしたワークシートを配布し，いくつ英語で表現できるか確認し合う。言えなかった表現は，教科書で確認し，練習する。

・ペアで，５つずつ質問したり答えたりする。→　何人かの相手とくりかえし行う。

（2）　「クイックQ&A」（質問４２文）を行う。

Part 1 ペアで対戦　→　先生の質問に早く正確に答えた方が１ポイント。（１０題）

Part 2 ペア同士で対戦　→　一方が相手に５題質問する。相手は，３秒以内に答え，正しければ１ポイント獲得。終わったら，役割交代。（１０題）



クイックQ&A

＜質問文 (Q)＞	＜答え方 (A)＞
1. あいさつ	**1. Greetings**
1. How are you?	1. (I'm) good [fine], thanks.
2. How are you doing?	2. Fine, thank you.
3. How do you do?	3. How do you do?
2. 天気	**2. Weather**
1. How's the weather today?	1. It's sunny [cloudy / rainy].
2. What's the weather like today?	2. It's sunny [cloudy / rainy].
3. Is it sunny today?	3. Yes, it is. / No, it isn't.
3. 名前，出身，年齢，身長	**3. Name, Hometown, Age, Height**
1. What's your name?	1. My name is ....
2. Can I ask your name, please?	2. Sure. My name is ....
3. Where are you from?	3. I'm from Japan.
4. Where do you come from?	4. I come from Tokyo.
5. What's your hometown?	5. My hometown is ....
6. How old are you?	6. I'm thirteen years old.
7. How tall are you?	7. I'm 160 centimeters tall.
4. 職業	**4. Job / Profession**
1. Are you a student or do you have a job?	1. I'm a student. / I work for a bank.
2. What's your job?	2. I'm a taxi driver.
3. What do you do (for a living)?	3. I'm an engineer.
4. Can I ask your profession?	4. (Sure.) I'm a doctor.

5. 家族	**5. Family**
1. Do you have any brothers [sisters]?	1. Yes, I do. I have two. / No, I don't.
2. How many brothers do you have?	2. I have one. / I don't have any brothers.
3. What does your brother do?	3. He works at a supermarket.
4. Is your brother a high school student?	4. Yes, he is. / No, he isn't.
5. Does your brother go to high school?	5. Yes, he does. / No, he doesn't.
6. Where does your grandmother live?	6. She lives in Akita.
6. 住所，電話番号	**6. Address, Telephone Number**
1. Where do you live?	1. I live in Naka-machi.
2. What's your telephone number?	2. My telephone number is ....
3. Can I ask your phone number?	3. Sure. It's ....
4. Can I ask your address?	4. Yes. My address is ....
7. 趣味，好み	**7. Hobbies, Favorites**
1. Do you have any hobbies?	1. Yes, I do. My hobby is ....
2. What's your hobby?	2. One of my hobbies is .... / I like ....
3. What do you do in your free time?	3. I usually ....
4. Do you like *judo*?	4. Yes, I do. / No, I don't.
5. What's your favorite food?	5. My favorite food is pizza. / I like ....
8. 時間，時	**8. Time**
1. What time is it?	1. It's ten forty.
2. Can I ask the time?	2. Sure. It's eight o'clock.
3. What time do you get up every day?	3. I usually get up at seven.
4. When do you play baseball?	4. We [I] play baseball on Sundays.
5. Do you have free time on Monday?	5. Yes, I do. / Sorry, I don't.
6. When are you free?	6. I'm free next Thursday.
7. When is your birthday?	7. My birthday is May 24.
9. 場所	**9. Place**
1. Where do you play baseball?	1. We [I] play baseball in the park.
2. Where's the school library?	2. It's on the second floor.
3. Where did you play soccer yesterday?	3. We [I] played soccer in the park.

（3）　ミッション「有名人のプロフィールを調べよう。」を行う。

・プロフィールカードを受け取る。（それが自分）

・自分以外の３人のプロフィールを調べることがここでのミッション。
　４人グループになって，各自が質問を考えてインタビューする。

・氏名，職業，年齢，住所，身長，好物など，調査用紙に記入していく。（書くのは日本語でもOK!）

（4）　先生（ALT）にインタビューしよう。（教科書 P. 112 $\boxed{4}$の活動）

＜学習課題：「知りたい情報を引き出すことはできるかな。」＞

①　前時に利用した調査用紙（カード）にクラス・番号・名前を記入しておく。

②　自分の番がきたら，ALTの先生が待っている部屋に入り，英語であいさつをし，出席番号を言う。
待っている生徒は，必要な答えを引き出すための質問を考え，たずねるための準備をする。

③　先生が誰かになりきっているので，英語でいろいろ質問をして，答えを引き出してカードに記入する。

④　全部の項目（氏名，職業，年齢，住所，身長，好物）について聞き終わるか，制限時間の２分が経過したら終了。

⑤　必要な情報をうまく引き出すことができたか，振り返りをする。

4　ＥＳＤとの関連

（1）　構成概念

Ｖ連携性…相手のことを知るために質問したり，相手の質問に答えたりする中で，よりよく対話ができる方法を探る。

（2）　態度・能力

④コミュニケーションを行う力　　ク：他者の気持ちや考えを尊重し，理解することができる。

【教科等の力】英語でのインタビューを通して積極的に質問し，相手のことを理解する力

1　題材名　A Trip to Finland

2　ねらい

・未来のことについて英語で積極的に対話をすることができる。

・２つの未来表現の違いを理解し，未来のことを伝えることができる。

3　学習活動

（１）「金沢自主プラン」について

・翌週の「金沢自主プラン」の天気，見学地，体験場所などについて話をする。

How will the weather be on June 2? → It'll be sunny.

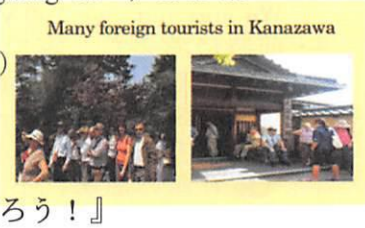
What (Where) are you going to ～? → I'm (You're) going to～／It'll be～

・最近の金沢の観光客についてのデータを示す。

観光客に人気の場所（兼六園，２１世紀美術館，金沢城）

昨年度の外国人観光客(200,580人)

出身国（台湾，アメリカ，香港）



（２）「金沢自主プラン」での外国人観光客との対話を想像する

◎問題解決場面　**『予定のない外国人観光客を誘って金沢を巡ろう！』**

・共通の場面設定

A:金沢自主プラン中の附属中学生	B:予定のない外国人観光客
場所：金沢駅西口	時間：午前９時

・生徒たちが自由に考える場面設定

A:これから行く予定の場所，案内する場所，案内の仕方（交通手段，待ち合わせ）

B:出身国，滞在期間，すでに行った場所（なしでも可）

① ペアでの即興対話

・１回目の対話

自分たちが考えた設定をもとに，１分間対話をする。

・対話の分析

対話を振り返り，関連のある教科書のページを開き参考になる表現を見つける。

金沢市内の地図やジェスチャー，自主プランのパンフレットを活用してもよいこととする。

・モデルの提示

JTE と ALT のモデル対話をビデオで視聴し，対話の展開を参考にする。

・２回目の対話

教科書の文やモデルをもとに，再度，９０秒間対話をする。

② グループや全体での対話の共有

・iPad による撮影

４人グループで１台の iPad を使い，互いの対話を撮影し合う。（３回目）

・グループでの対話の相互分析

自分たちの対話の映像を見ながら，良い点や改善したらいい点を話し合う。

・１組が全体の場で対話を発表する。

（３）即興対話をもとに対話文を書く。

・発話した対話や他の生徒の対話をもとに，各自が対話文をワークシートに書く。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ｉ多様性…北欧の国について学ぶことを通して，様々な価値観や考えがあることに気づく。

（２）能力・態度

②未来像を予測して計画を立てる力　エ

【教科等の力】金沢自主プランで出会う外国人観光客との対話を予測して対話する力

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　国際理解　　②教科　柏樹タイム（総合）

③題材　「金沢自主プラン」（総合　２年）

1　題材名　If You Wish to See a Change

2　ねらい

・自分の考える解決策や未来像を，積極的に英語で伝えることができる。

・地球規模の問題について，その解決策を考えて表現することができる。

3　学習活動

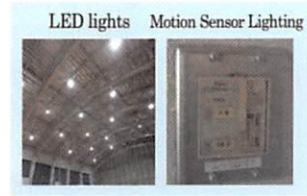
（１）今の私たちの学校について

・2030 年はどうなっていたらいいかを考える。

If we don't change our lifestyles, Japan will become small like this map. Japan will have no rice fields and no skiing areas, more hot days and more floods. Can you imagine that?
We may not live 100 years later.　Why don't we think of Japan in 2030?

・前時に考えた，家でできる取り組み例を提示する。

（例）We waste a lot of vegetable peels because we can't eat them.
So we should make compost.



・自分たち学校で，環境に配慮されている場所を提示する。
（体育館の照明，トイレの照明，扇風機など）

・エコスクール，グローバル校（附属高校と金沢大学），
フューチャースクール（シンガポール）の実践例をあげる。

（２）2030年の未来の理想の学校を想像する。

◎問題解決場面　『**世界の人たちと共存するために，未来の理想の学校を提案しよう！**』

・未来の学校を考える上での３つの視点

A: 学校生活・生徒会活動　B:行事・授業　C:建物・設備

① ブレーンストーミング

・マインドマップに，思いついた考えを自由に書き出す。

② ペアでの即興対話

・互いが考える理想の学校について，マインドマップをもとに対話をする。

③ 未習単語調べ

・未習語は和英辞書で調べてマインドマップに書き込む。

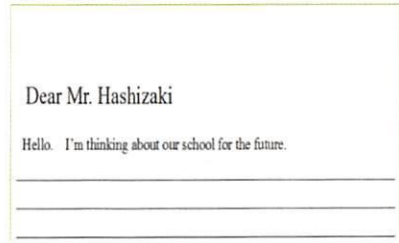
④ 違うペアでの即興対話

・席が近い違う相手と理想の学校について再度対話をする。

⑤ モデル発表

・指名された席の離れた生徒2人が，対話をする。

提案文


Dear Mr. Hashizaki

Hello.　I'm thinking about our school for the future.

（３）（副）校長宛てに，未来の学校を提案する。

①提案文を書く。

・2回の対話をもとに，副校長宛てに提案文を５文以上でまとめて書く。

②(副)校長からアドバイスの手紙を読む。

・生徒たちに向けた副校長のアドバイスを読み，参考となる表現があれば書き直す。
アドバイスの内容：中学生の義務，予算（300万円まで），グローバル化など

③３人の生徒が代表で提案する。

・発表する生徒が書いた原稿をiPadで撮り，発表に備える。

・理想の学校を，３つの視点で３人が提案する。

4　ＥＳＤとの関連

（１）構成概念

Ｉ多様性…地球規模で考えなければいけない問題がたくさんあることに気づく。

（２）能力・態度

②未来像を予測して計画を立てる力　ウ

【教科等の力】セヴァンのスピーチをもとに，未来の学校を考え提案する力

（３）教材の「つながり」

①ＥＳＤ関連分野　国際理解　　②教科　　社会

③題材　「南アメリカ州」（社会　１年）「世界から見た日本の姿」（社会　２年）

1　題材名 The 5Rs to Save the Earth

2　ねらい

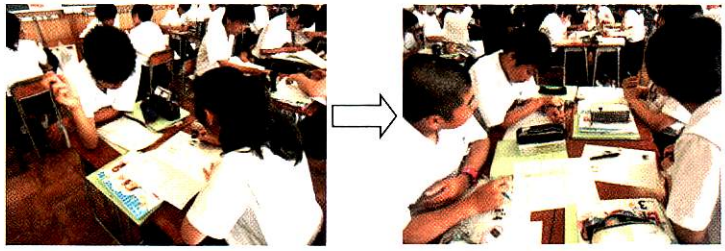
環境問題に対して各家庭で実践したことを伝え，友達の意見を聞いて自分考えをまとめて英文で表現することができる。

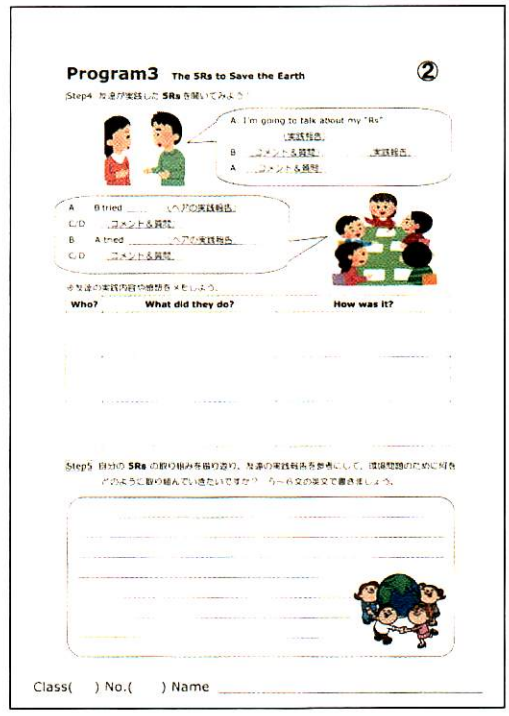
3　学習活動

（１）Progmra3 で習った 5Rs について確認をして，各家庭で行った 5Rs の実践内容と感想をまとめる。

（２）「附中 ECO Project」実践報告会

個人で計画し，実践してきた 5Rs の内容や感想をワークシートの対話例にならってペアで話し合い，その後，４人グループでそれぞれのペアの実践内容を相手のペアに伝える。

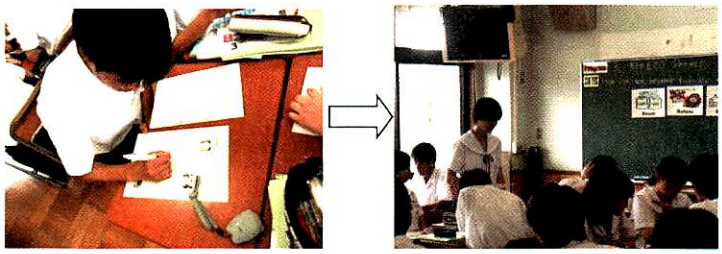




ワークシート

（３）「附中 ECO Project」見直し

友達の意見を聞いて，自分が行ってきた 5Rs の活動で追加・修正があれば見直し，これから自分たちが地球のためにしなければいけないことやしてみたいことを英文でまとめる。友達の意見や考えをふまえて，環境問題に対して自分の考えを英文でまとめて発表する。



4　ESD との関連

（１）構成概念

Ｉ多様性…１つの目的に対して，家庭や個人によって様々な取り組みがあることを知る。

（２）能力・態度

①代替案の思考力　イ　他者の意見をふまえて自分の意見を建設的に述べることができる。

【教科等の力】個人や家庭でできる５Rs を考え，実践してその結果や成果を伝える力。

（３）教材の「つながり」

①ESD 関連分野　環境問題

②教科等　　家庭科

③題　材　「環境に配慮した衣食住」

1　題材名　What is the most important for you?

2　ねらい

ボランティア活動案の発表を聞たり読んだりして，より良いものに改善するために自分の意見や考えを伝えることができる。

3　学習活動

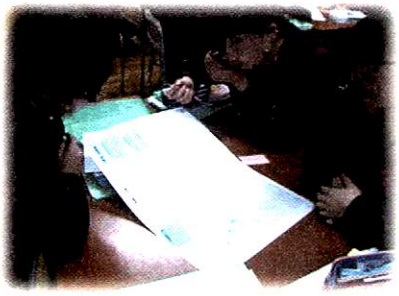
（１）発展途上国や国際協力について確認し，再度問題意識を持たせることで，本時の課題に意欲的に取り組めるようにする。

（２）「附中国際協力 Project」発表

考えてきたボランティア活動を４人班で発表し，改善したい案を１つ選ぶ。個人で計画し，実践してきた 5Rs の内容や感想をワークシートの対話例にならってペアで話し合い，その後，４人グループでそれぞれのペアの実践内容を相手のペアに伝える。

（３）意見交流

班を移動して各班で選ばれた案を読み，問題点や改善点を見つけ，それに対する代替案を考えて付箋に貼る。



（４）改善案発表

代替案を受けて，修正・改善したものを発表し，どの班のボランティア活動案が良かったか選ぶ。

4　ESD との関連

（１）構成概念

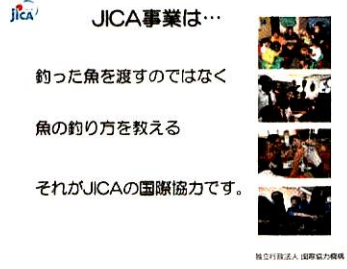
Ｉ多様性…１つの目的に対して，立場や状況によって様々なボランティア活動案があることを知る。

Ｖ連携性…様々な課題や問題の解決にあたって，連携・協力していく必要があることを知る。

（２）能力・態度

①代替案の思考力　イ　他者の意見をふまえて自分の意見を建設的に述べることができる。

【教科等の力】自分の意見や理由を含めてまとまりのある英文で話すことに加え，相手の意見やたずねられたことに対して，自分の意見を建設的に伝える力。



（３）教材の「つながり」

①ESD 関連分野　国際協力

②教科等　　社会科

③題　材　　「貧困問題」

ＥＳＤ実践事例　【エネルギー】10-3：これからの日本のエネルギー　　英語科　３学年１２月

1　題材名　Clean Energy Sources

2　ねらい
環境問題（地球温暖化防止）について，これから自分ができることは何か，自分の意見や考えを英語で述べることができる。

3　学習活動

1. Review
・前時にどの発電方法について，自分の考えを書いたか確認する。
[wave power / geothermal power / wind power / solar power]
<その他：thermal power, water power, nuclear power >
・今後私たち（日本）はクリーンエネルギーを使っていくべきか，なぜそう思うのか述べる。

Keyword： not use fossil fuels / save the environment / stop global warming
stop climate change / not give off CO2 (greenhouse gases) / limited fossil fuels

2. Introduction of Today's class
（1）　ツバルの現状を聞いて，環境問題について考える。
「地球温暖化，しずみゆく楽園ツバル」 写真・文　山本敏晴（NPO法人　地球船地球号）

（課題）　"What can we do to stop the global warming and help Tuvalu?"
～ツバルの中学生に「自分の取り組み」についてのメッセージを送ろう。～

（2）ワークシート Step 1
ペアで自分が「できること」「すべきこと」や「これからすること」についてお互いに言い合う。
（3）　ワークシート Step 2
マインドマップで自分の考えを深める。
（4）　ワークシート Step 3
ツバルの中学生へのメッセージを３，４文の英語で言えるように，考えを書く。
（5）　ワークシート Step 4
グループで発表し，助言・感想を伝え合う。

3. Consolidation
・数名の生徒がクラス全体に発表する。
4. Closing
・English Learning Journalを書いて，振り返りをする。

4　ＥＳＤとの関連
（1）　構成概念　　Ⅰ　多様性　　Ⅵ　責任性
さまざまな発電方法やその問題点を知り，エネルギーや環境問題について考える。（多様性）
環境問題から，これから自分がすべきことやできることを考え，発信していく。（責任性）
（2）　態度・能力
②未来像を予測して計画を立てる力
ウ：　過去や現在の情報に基づいて，未来を予想・予測することができる。
【教科等の力】地球温暖化の防止のために，これからの生活の中で，自分がすべきことを考え，発表できる力
（3）　教材の「つながり」
①　ＥＳＤとの関連　　環境
②　教科　　社会
③　題材　　「資源・エネルギー問題」